

JR東海労なごや

2026年2月23日No.1269
JR東海労名古屋地方本部
発行者：松山文成
編集者：教宣部

JRひがし労と統一要求で2026春闘を闘おう！！
新たな仲間の拡大を勝ち取りJR東海労の未来を切り拓こう！！

第36回定期地本委員会開催

東海労名古屋地本は2月22日、名古屋市牧野コミュニティセンターにおいて第36回定期地本委員会を開催しました。司会は丹羽副委員長が行い、議長に吉田委員を選出しました。来賓として東海労本部淵上委員長、高山副委員長、林地本OB会長より挨拶を受けました。



松山委員長挨拶(要旨)

「2月11日に行われた本部定期中央委員会でJS労の姥直樹さんの報告があった。JS労の闘いに敬意を表するとともに、連帯の闘いを進める。第51回衆議院選挙について地本は本村伸子さん(共産党)を応援してきた。残念ながら議席獲得にはならなかったが、リニア問題、平和の取り組みなど今後も支援をしていく。平和の取り組みとして、OBの伊藤さんから提起をされた「攻撃型ドローンイスラエルから輸入する海外物産」への抗議はがきの取り組み、7月開催のあいち平和映画祭への取り組みを最大限取り組む。JR東海における賃金引き上げの闘い、社会福祉法人における賃金引き上げの闘いを2026春闘の柱として闘う。東海労は他の企業の仲間と今後も連帯して闘う。職場に目を向ければ、ダイヤ改正により315系4両ワンマン、駅の無人化(サポートサービスの見直し)による大幅な効率化、社会福祉法人では危機的な人員不足など多くの問題を抱えている。しっかり取り組んで行く。さらにリニア中央新幹線建設反対の取り組みを、今後も地域の方々と共に進めていく。」

委員会宣言(案)

本日、私たちは名古屋市牧野コミュニティセンターにおいて、第36回定期地本委員会を開催し2026春闘を全組合員で闘うことを意思統一した。

2026年、年明け早々アメリカによるベネズエラへの軍事的侵襲により、世界は「法の秩序」から「力の支配」へと動き出した。東半球は習近平、西半球はトランプとばかりに覇権争いにより拍車がかかっている。

日本国内では、第51回衆議院議員選挙において自民党が単独過半数を占め、自民党の歴史的勝利に終わった。2月18日には第2次高市内閣が発足し、今後より一層、戦争への道を急ピッチに進めていくことは必至である。9兆円を越す防衛予算を始め、中国を敵視する発言、憲法改定の動向をみれば戦前同様であることは間違いない。

私たちはJR総連から決別して1年が経過した。そして、企業内の枠に囚われない労働組合に意識を転換し、組織強化・拡大を目指し奮闘してきた。その結果、JR以外の会社からの組織拡大を実現し、その組合員が勤務する社会福祉法人との団交を開催した。また、出向組合員が所属しているCMCとも団交を重ね、多くの成果を勝ち取ってきた。

東海会社は、昨年の春闘でのペアと夏季手当、年末手当の出し渡りを行なった。他企業よりはるかに低い水準である最大の理由は、11兆円にも膨れ上がったリニア建設費による人件費削減である。今春闘は、本部方針である「JRひがし労の仲間と連帯するために、統一要求を掲げて闘う」を支持し、ペア2万円と定昇6,000円(基準昇給額1,500円乗数4)、夏季手当3.8ヵ月プラス専任社員10万円の要求を掲げ、満額回答を目指し職場から全組合員で闘う。組合員が働く社会福祉法人においては、全職員一律13,000円、パート社員時給70円のペア要求と、夏季賞与1.5ヵ月の満額回答を要求し闘う。

今、職場では、業務改革による大効率化と、それをスムーズに行うための労務管理が強化されている。業績考課が導入され、さらに社員間の競争を煽っている。3月のダイヤ改正ではワンマン運転が4両に拡大される。運転士のさらなる負担と、乗客の安全が脅かされる。大効率化と労務管理強化に新幹線建設費の増額は、私たちがこの間指摘していたことが現実となり、経営破綻はより確実となった。水源枯渇、相次ぐ陥没や隆起、汚染土からの有害物質の流出など、環境汚染は年々拡大している。これらに対する有効な手立てはない。一刻も早く工事を中止しなければならぬ。裁判で闘っている市民団体をはじめとする仲間とより連帯を強化し、リニア建設中止に向けた闘いを強化する。

地本は、JR職場に拘らず、全ての労働者に目を向け東海労シンパの輪を広げ、これを組織拡大につなげる。私たち大人は、子供たちのために平和な社会をつくるのは当たり前である。私たちは、平和を希求する全ての仲間と連帯し、反原発の闘いを併せ、反戦・平和の闘いを展開する。

以上宣言する。

2026年2月22日
JR東海労働組合
名古屋地方本部
第36回定期地本委員会

質疑応答、総括答弁の後、松山委員長の

団結ガンバローで委員会は成功裡に終了しました。